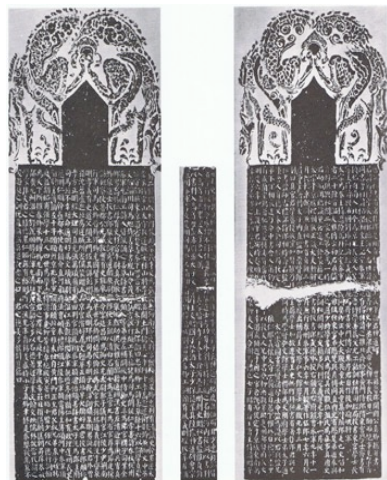


顔勤礼碑

779年（大暦14）顔真卿70歳の楷書と撰文。陝西省博物館（西安碑林）蔵。

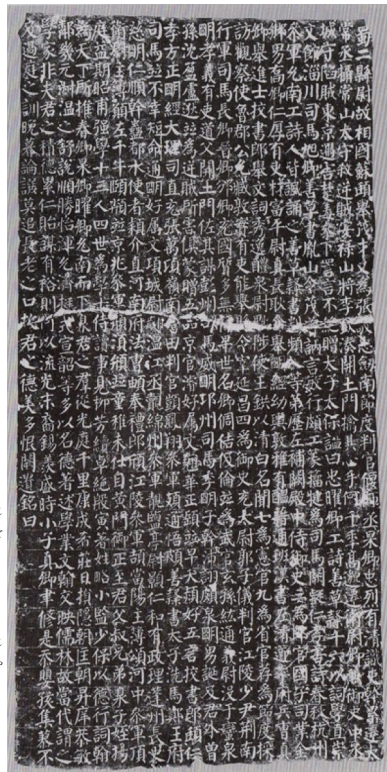


整本

曾祖父の顔勤礼のために建てた神道碑。  
四面碑。碑高268cm、碑幅92cm（碑身拓本高さ175cm、幅89cm）  
第一面（碑陽）19行、満行38字。  
第二面（碑側）5行、満行37字。  
第三面（碑陰）20行、満行38字。  
第四面（右側の碑側）消失。  
現在は1600余字。字径約4cm。  
宋代に土中に埋もれ、1922年出土した。1000年近く土中に埋もれていたため文字がはつきりとしている。碑の中では最も肉筆に近いと言われ、願法の真を学ぶのに良いと思われる。

字の配置と全体の構成（布置・章法）

布置法は文字の配置の仕方、章法は全体の構成のこと。



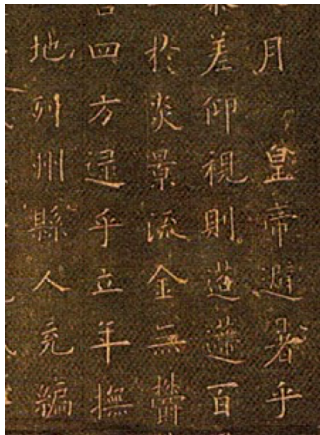
整本（碑陰）

字座（または字野）

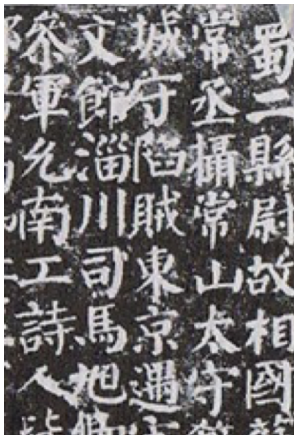
書かれた文字には位置のエナジー（ポテンシャルエナジー）による心理的な勢力範囲が在る。字座の強さによって余白の質が決定される。

顔勤礼碑は文字の内部に広い余白があり、力は内部に向かい、広い字座がなくても窮屈な感じがしない。

九成宮醴泉銘は求心的で内部に余白がない。それでも窮屈な感じがしないのは、字座を広くする工夫をし、その遠心的な力を受け止めるために広い余白をつくっているからである。



九成宮醴泉銘（整本部分）



顔勤礼碑・碑陰（整本部分）



777年6月（大暦12）元載が失脚し、真卿は湖州から中央に呼び戻され同年8月、刑部尚書（法務省長官）となる。  
778年12月、吏部尚書（人事院長官）となり礼儀使を兼務した。

779年5月李希烈が淮西節度使になる。5月22日代宗が崩御し24日徳宗、即位。楊炎、宰相となる。  
780年1月楊炎の両税法実施。2月楊炎により劉晏、左遷され、7月に殺された。  
顔真卿は楊炎に憎まれ、またまた政界から遠ざけられることになる。

点画の組み立て方（結構法・結体法）けつこうほう けつたいほう 初唐の楷書の原理原則と同じである。  
中心にある縦画は太くまっすぐに書く。



等間隔



筆圧の変化（リズム） 細い点画と太い点画の組み合わせ。重厚さと軽やかさの融合。左はらい、横画を細く。



右側の縦画、はらいを左側の縦画、はらいより太く書く。



点画の譲り合い（相譲相避法）そうじょうそうひほう



形のバランス（向勢・背勢・直勢）こうせい はいせい ちよくせい



向勢



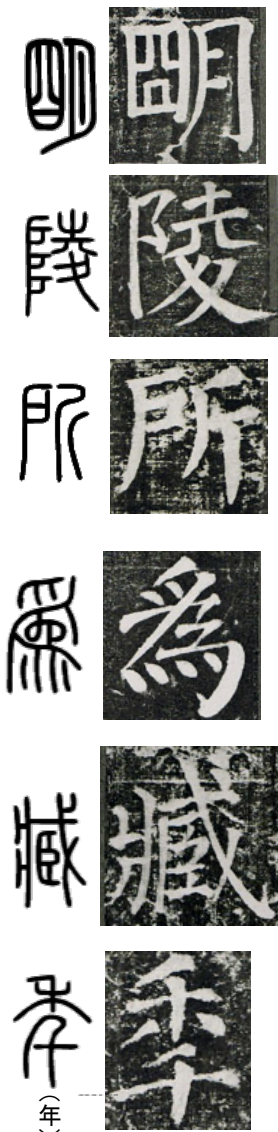
九成宮醴泉銘

背勢



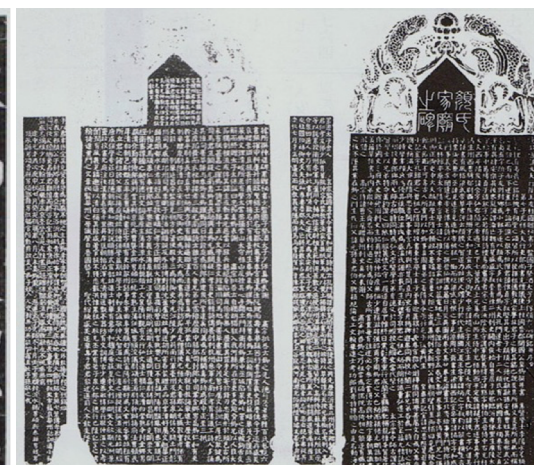
直勢

篆書を基にした楷書

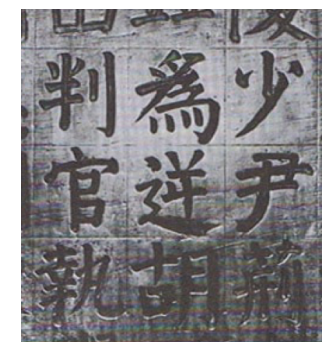


顔氏家廟碑

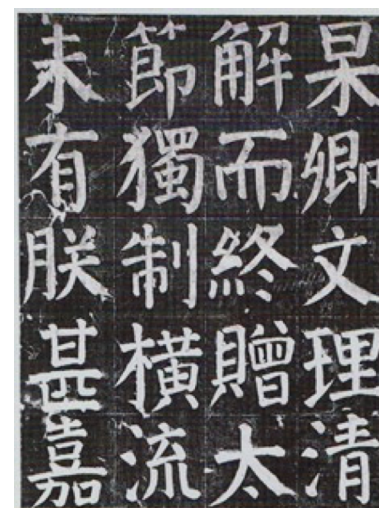
780年（建中元年）7月 顏真卿71歳の楷書と撰文 西安碑林蔵



整本



碑面



向勢



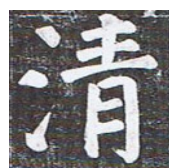
覆勢の横画



雁塔聖教序より

楷書の基本である、横画の  
仰勢、平勢、覆勢（俯勢）  
で書かれている。

懐が広い



小篆の「美」

九成宮醴泉銘より

九成宮醴泉銘より

度惟是一有實負萬  
國力乃稽古則思其  
人况 太后崇徽  
外家聯屬顧先勲  
舊方睦親賢俾其

度惟是一有實負萬  
國力乃稽古則思其  
人况 太后崇徽  
外家聯屬顧先勲  
舊方睦親賢俾其

がいかれんぞく  
外家聯屬

太子少師（皇太子の教育係）への辞令を自ら書いたもの。「告身」とは辞令のことである。真跡本と刻帖が伝えられている。「建中告身帖」「建中帖」などともいう。真跡本は台東区立書道博物館蔵。33行、1行8〜9字、全255字、字大約3cm。真跡本は跋文を入れて30cm×約221cmである。「顔氏家廟碑」とは章法、結構が違い、字形は縦長で行間が広くすっきりとしている。刻帖からは真跡から感じる柔らかさ（弱さ）や繊細な墨色を感じることは難しい。刻帖のほうを力強くて自然味があると高く評価する人もいる。

顔真卿は宰相楊炎にきらわれて780年8月吏部尚書から太子少師に遷された。礼儀使は兼任。太子少師は、皇太子のお守り役で、身分は高いが政治的実権はない。その後楊炎は徳宗からきらわれて徳宗が抜擢した新宰相の盧杞により失脚させられ、殺された。

外家聯屬

外家聯屬

移蔡帖  
いさいじょう  
785年（貞元元年）1月19日 顔真卿76歳の楷書。

其可誣乎有  
唐之德則不  
朽耳十九日

汝州から蔡州に移され、1月19日に書かれた宛先不明の手紙。遺言？ 全36字、字大約5cm。

「天命は明らかである、唐の徳は朽ちることはない」と書かれている短い文章である。死を覚悟した、澄んだ空のように清らかな、細く勁線（きんせん）で書かれている。忠義堂帖にある。

※この帖は勤王の志士や神風特攻隊員に影響をあたえた浅見綱斎の『靖献遺言』巻の4に載っている。

顔真卿は782年8月太子太師となり、礼儀使を解任された。この年淮寧節度使の李希烈が反乱をおこし、783年1月汝州を攻めおとした。顔真卿をきらつていた宰相盧杞は、この時とばかりに顔真卿を淮寧宣撫使として汝州に派遣することを徳宗に奏上し、783年1月17日「反乱の奸李希烈を宣撫せよ」との詔勅が顔真卿に下った。説得に向かった真卿は、汝州で李希烈に捕らわれ拘留された。（783年12月盧杞は左遷され失脚した）その後、唐軍は汝州を奪還し、反乱軍は汝州をすて蔡州にひきあげた。785年1月5日顔真卿も蔡州に送られ、龍興寺に幽囚され、同年8月13日縊殺された。満76歳であった。翌786年李希烈は部下の陳仙奇に毒殺された。陳仙奇は唐朝に帰順し、顔真卿の遺骸を長安に届けた。真卿の2人の息子が襄城県まで出むいてこれを迎え、11月に万年県鳳棲原の先祖の墓に合葬された。徳宗は司徒の称号を贈り、文忠と諡した。

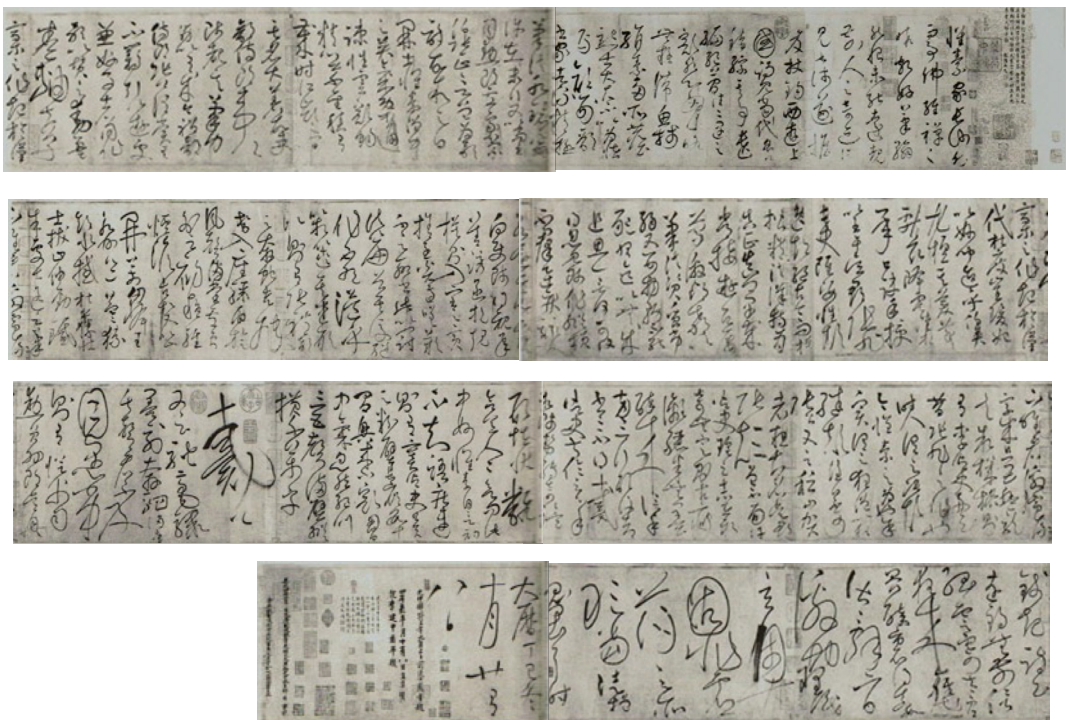


顔真卿の墓（河南省偃師県）他所にも、いくつか墓がある。

自叙帖

777 年 10 月（大暦 12）

懷素 40 歳？ころの狂草。台北故宮博物院藏。



懷素（737？ー？）生卒年不詳。

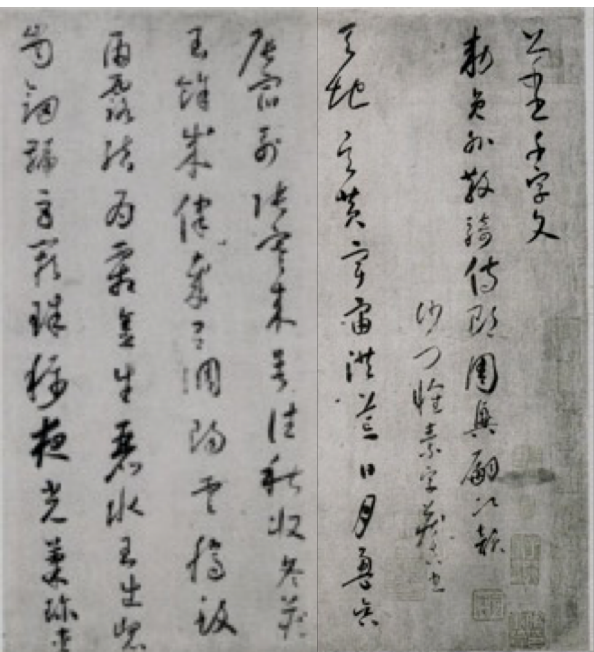
「自叙帖」には、幼少のとき仏門に入り、修行のかたわら大変熱心に書を勉強したと書いている。紙を買えなくて芭蕉を栽培してその葉に練習したという伝説がある。草書の名人で張旭とともに「張顛素狂」と呼ばれる。顔真卿を介して張旭の狂草を学んだらしい。その生涯はほとんど不明である。

「自叙帖」は、15 枚の紙をついだ卷子で、自分の書歴を自分で書いたものだが、他人の言葉で自画自賛したものがほとんどの自慢のための作品である。顔真卿に書いてもらった言葉が全体の 4 分の 1 ほどもある。この書は 777 年 6 月、顔真卿が湖州から戻ってきて 8 月に刑部尚書に任命された 2 ヶ月後に書かれている。約 28 × 755 cm。直筆（正鋒・中鋒）、同じ太さの線、円運動が基調である。136 行。

草書千字文

799 年（貞元 15）

懷素晩年？の草書。



草書千字文。

勅員外散騎侍郎周興嗣次韻。

沙門懷素字臧真書。

天地玄黃。宇宙洪荒。日月盈昃。辰宿列張。寒來暑往。秋收冬藏。玉餘成律。歲呂調陽。雲騰致雨。露結為霜。金生麗水。玉出崑崙。劍號巨闕。珠稱夜光。菓珍李（奈）

げんびとうひ  
玄秘塔碑

841年12月

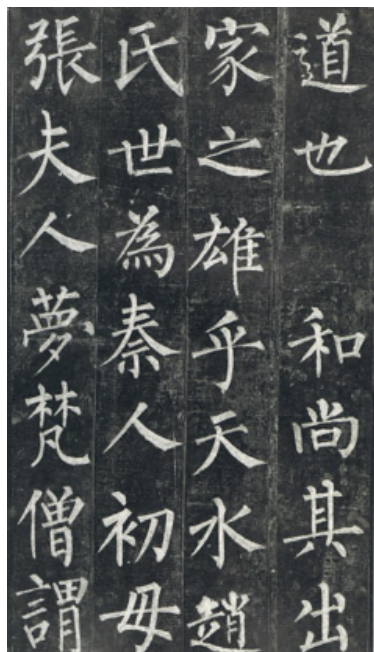
りゅうけん  
柳公権 64歳の楷書。

はいきゆう  
撰文は裴休。

西安碑林蔵



整本



篆額



碑のレプリカ



りゅうけん  
柳公権（778―865）陝西の名門の出身。40年以上中央政府で平穩な官吏としての道を歩んだ。

晩唐の楷書の名手で顔真卿の後継者といわれる。楷書の四大家の一人。「用筆は心に在り、心正しければ筆正し」の言葉が有名である。

※楷書の四大家とは欧陽詢（欧体）・顔真卿（顔体）・柳公権（柳体）・趙孟頫（趙体）

初め王法を習い欧陽詢を学んだ。顔真卿をいつ学んだか分からない。晩唐期に一世を風靡した流行作家であった。多くの碑が残っている。その書風を「柳体」という。

米芾は「醜怪な悪筆の元祖であり、古法は柳公権よりすたれた。」と評している。

玄秘塔碑

だいたつほうし  
大達法師・端甫の業績と玄秘塔の由来を記した碑。「大達法師玄秘塔碑」「和尚碑」ともいう。

28行、満行54字、篆額12字（柳公権の篆書）、字大約4cm、碑高386cm、碑幅120cm厚さ約30cm。

刻者名（邵建和・建初という兄弟）が記されている。

主画強調の造形。

起筆はすべて逆筆、藏鋒。

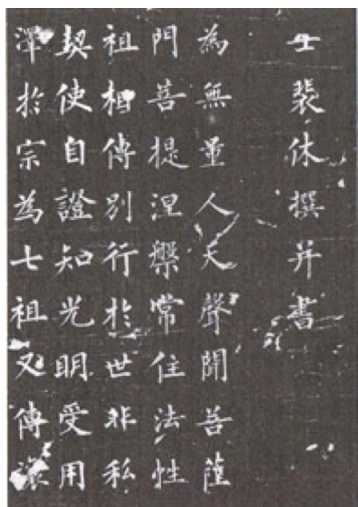
右はらいは逆筆で入筆、送筆部は側筆。

碑高は4m近いので、上段は大きく書いている。上段は顔法、下段にゆくにしたがって欧法、楮法が出てくる。

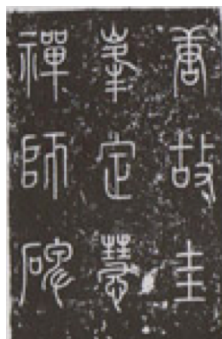
上の図版の「無心」は最下段、「去來」は最上段にある。「大不思議」は中段に「水月鏡像」は下段にある。

圭峰禪師碑

855年 裴休の楷書と撰文。



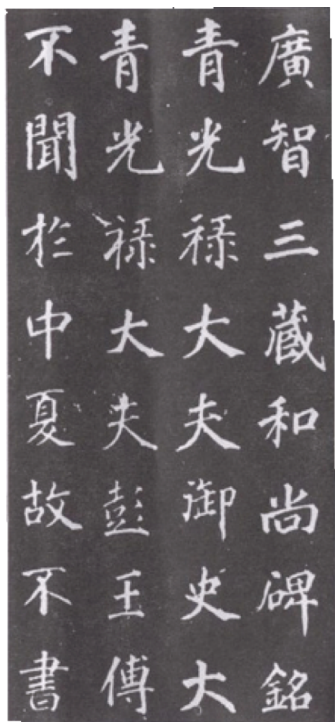
唐末の傑作。『千祿字書』などの影響の全く見られない伝統的な楷書（欧法）の字体を書いたもの。篆額を柳公権が書いている。裴休は柳公権の玄秘塔碑の撰文者。碑高198cm、碑幅89cm、36行、満行65字。西安市の南方、郊外の草堂寺に現存するらしい。



篆額

不空和尚碑

781年11月（建中2） 徐浩79歳の楷書。西安碑林蔵



大秦景教流行中国碑

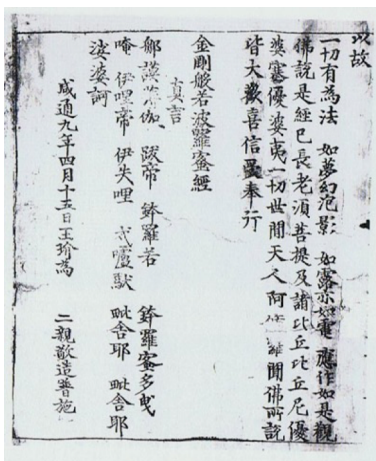
781年（建中2） 西安碑林蔵



整本

金剛般若波羅密經

868年 現存最古の木版印刷物と版面



オーレル・スタインによつて1907年に敦煌の莫高窟で発見された。印刷された6枚の紙をつないだ巻物で長さ5.3m。巻首に現存最古の版面である口絵がついている。現存する世界最古の木版印刷物は法隆寺の「百万塔陀羅尼」（770年）らしいが、これはバレンを使っていないらしく、木版印刷と言えるかどうか疑問がある、とりあえず金剛般若経を最古としておく。中国では630年頃印刷が行われていたという最古の記録もあるらしい。

## 唐の滅亡

安史の乱以後、各地の節度使が軍閥化し反乱を起こした。王朝内では奸臣かんしんを見抜けない愚かな皇帝のもと、私利私権を争う官僚や宦官が暗躍し、大唐帝国は内部から崩壊し始め、坂道を転がるように奈落の底へと落ちていった。20代哀帝まで290年つづいた唐朝は、塩の密売人の黄巢こうそうの反乱によって907年滅亡した。唐が栄えたのは、玄宗までの約150年間であり後半の150年は混乱の中で息絶えていった歴史であった。

顔真卿は唐朝が最も栄えた時代から地獄へ転げ落ちていく時代までを駆けぬけた人であった。

顔真卿を支えたのは、質実剛健な儒者の精神と、書道であったと思われる。

顔真卿の剛直な生き方は、孔子門下の儒者の精神を受け継いだものと思われる。

儒者とは天下国家を憂え、あるべき理想の社会を時の権力者に質す激しい人たちである。

孔子の門下の72人の高弟のうち8人が顔氏であったと「顔氏家廟碑」に述べられている。

儒とは身を律する学問である。

子路問事君、子曰、勿欺也、而犯之。『論語』憲問第14の23

子路、君に事えんことを問う。子曰わく、欺くこと勿かれ。而してこれを犯せ。

子路が主君に仕える事を尋ねました。孔子は答えました。「嘘をついてはいけない。しかし主君の誤りは正面からいさめよ。」・・・君主に仕えるときの心構えを説いている。

六言六弊『論語』陽貨第17の8

好仁不好学、其蔽也愚、好知不好学、其蔽也蕩、好信不好学、其蔽也賊、好直不好学、其蔽也絞、好勇不好学、其蔽也乱、好刚不好学、其蔽也狂、

仁を好んで学問を好まない、その弊害として愚かになる（人から愚劣と見なされる）。

智を好んで学問を好まない、その弊害としてとりとめが無くなる。

信を好んで学問を好まない、その弊害として人をそこなうことになる（自分が騙されてしまう）。

正直なを好んで学問を好まない、その弊害として窮屈になる。

勇を好んで学問を好まないと、その弊害として乱暴になる。

剛強を好んで学問を好まないと、その弊害として狂乱に陥ることになる

仁（友愛）・知（知識）・信（誠実）・直（正直）・勇（勇氣）・剛（剛強）の六つの徳

「六弊」は愚（愚直）・蕩（放蕩）・賊（有害）・絞（緊迫）・乱（無秩序）狂（狂気・思い上がり）

唐の混乱は新しい時代を産み出すための痛みであった。

顔真卿の生命感あふれる新しい書は、次代の新しい書を生み出す大きな原動力となり、現代まで何度も顔真卿は復活するのである。



顔真卿の絶筆といわれる  
「天中山」の三文字。